

ロリエルフのお姫様は主様が大ちゅき♪
あまあま搾精性活♪

「……もし、もし……主様、主様……」

「なかなかお目覚めになれませんね。私が見つけた時にはもう大分お疲れのようでしたし、仕方ないのでしょうが……」

「あっ、お気づきになりましたか？ 主様っ♪」

「って、いきなり初対面の私に話しかけられては混乱してしまいますよね」

「まずは自己紹介をさせてください。私はこのエルフの里の統治者、姫を任されているリーフィ・リ・ヴィアと申します。長いですから、どうか親しみを込めてリフィーとお呼びください♪」

「主様がこのエルフの森で一人行き倒れていた所を偶然発見し、私の城までお連れしたんです。覚えていらっしやいませんか？」

「はい、そうです。ここはエルフの隠れ里。本来であれば立ち入りを許された者しかたどり着けない、特別な場所です」

「しかし、ある特別な人間のみ、このエルフの隠れ里にたどり着けるのです」

リーフィ 「そう……その特別な人間とは、私たちエルフ族を孕ませられるおちんぼを持った人間……それが主様なのです」

リーフィ 「元々エルフというのは長命の代わりに繁殖力の低い種族でして……」

リーフィ 「エルフの男性は種無しも多く、しかし性欲旺盛な人間に子種をいただいても種族の違いからか、中々孕めるエルフはいませんでした」

リーフィ 「ただ、稀に種族の垣根を越えて、どんなメスでも孕ませられる伝説のおちんぼを持つ人間が現れ、まるで運命に導かれるかのようにこのエルフの里に迷い込み一族を救う……そういった言い伝えをおばあ様から聞かされてきました」

リーフィ 「正直おとぎ話の類だと思っていたのですが……こうやって主様を目の前になると、ああ♪ このお方こそ、私たちメスエルフを孕ませてくれる救世主様なんだと、確信しました」

リーフィ 「あなた様はいわば、エルフ族の未来を担う、私たちのご主人様なんです。だからこそ、親愛と敬意、そして服従の意味を込めて、主様と呼ばせていただいています」

リーフィ 「ですから、あの、えっとですね……」

リーフィ 「どうか、私たちエルフ族を救う為に、私の事を孕ませていただけませんか？」

リーフィ 「つて、う、うう……まだ目を覚まして間もないのに、こんな突拍子もないお話をしてしまい申し訳ございません」

リーフィ 「そうですね……主様も混乱していらっしやるでしょうし……ここは少しでも早く元気になっていただくためにも、私が癒しのご奉仕をして差し上げますね♪」

リーフィ 「孕ませていただく……そのう……つ、つまり……せ、セックしゅ！……し、してもらう前に、まずはお互いの事を知らなきゃダメですから……♪」

リーフィ 「主様♪ 私……リフィーの事を、いっぱい感じて、知ってください♪」

◆トラック2

リーフィ 「主様♪ 早速ですが、お召し物を脱いでベッドに仰向けで横たわってください♪」

リーフィ 「えへへ♪ ありがとうございます。 つて、主様のお身体、とっても凄いですね」

リーフィ 「筋肉質で硬くて、逞しくて……エルフの男性は皆ひよろひよろでやせ細っていますから、主様のお身体……メスとオスの違いを見せつけられてるようで……とっても魅力的です♪」

リーフィ 「はあ、はあ……ん♪ な、なんだか、こんなに
かつこいいお姿を見せつけられると、体が熱く
なって、興奮してきちゃいましたあ♪」

リーフィ 「ん、ん♪ ああ♪ はあ、はああ♪ ん、やあ
♪ ダメですう♪ おまんこから、もうお汁が漏
れ始めて……す、すみません主様。こんなはした
ないロリおまんこで……あうう……恥ずかしいで
すう……♪」

リーフィ 「こんなちっちゃくて幼くて、それでいてすぐ発情
してお漏らししちゃうようなロリエルフ……嫌い
になっちゃいましたか？」

リーフィ 「ふえ？ あ、あううう♪ あうあうあううう♪
そんなあ♪ とっても可愛くて素敵だなんて♪
え、えへへ♪ 主様あ♪ ありがとうございま
す♪ 嬉しくて嬉しくて♪ んにやああ♪ 生
まれて初めてこの幼い体に感謝しちゃいましたあ
♪」

リーフィ 「主様♪ 主様主様主様主様ああううう♪ ん♪
うううえいいっ!!」

リーフィ 「えへへうう♪ 主様♪ 好きです♪ 大好きで
す♪ こんなに男性に対して好意を抱いたことは
ありません！ これが恋というものなのでしょう
か？ それなら、私の初恋は主様ですね♪」

リーフィ 「主様ゝ♪ 主様主様ゝ♪ ふふ♪ 主様？ 私の事、ぎゅって抱きしめてください♪」

リーフィ 「はううう♪ 主様のお胸に抱き寄せられて……
とっても温かいです♪ んん♪ すりすり♪
すりすり♪」

リーフィ 「どうですか？ 主様？ 癒されてくれてますで
しょうか？ 私たち、特に王族の血をひく私の肌
は、触れている対象に対して癒しを与える効果
があるんです♪」

リーフィ 「エルフの内から溢れるマナが主様にいきわたって
る……まあそんな感じで、私に触れてるだけで傷
も癒えちゃうんですよ？」

リーフィ 「ですから、こうやってもっとぎゅってして、いっ
ぱい癒やしてあげますね♪」

リーフィ 「んん♪ すりすり♪♪ すりすり♪♪ すり
すり♪♪ すりすり♪♪」

リーフィ 「って、あ、きゃん！？ あ、主様？ あのう……
そのう……何だか、下の方から固い、変な感触が
するのですが……」

リーフィ 「も、もしかして、抱き合ってるだけで、主様のお
ちんぽ、勃起されたのですか？」

リーフィ 「わあ♪ 私のちっちゃな体でこんなに早く勃起してくださるなんて♪ あううう♪ 主様♪ 嬉しいですよ♪」

リーフィ 「主様あ♪ どうか、こちらを向いてください♪ はい、私の顔を見つめて……」

リーフィ 「んっちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ちゅぶ……ん、ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪ はああ♪ 私のファーストキス……エルフのお姫様キス、あげちゃいましたあ♪」

リーフィ 「とっても甘くて、美味しくて♪ もっとキスしたいです、主様♪ ん、ちゅ♪ ちゅぶ♪ ちゅ……ちゅ♪ ちゅ♪ ちゅ♪ れろ♪ ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

リーフィ 「主様……あのう、もっと激しいキス……大人のキスをしてみていいですか？」

リーフィ 「交わる男女は、孕ませエッチをする前にお互いの涎を交換し合い、気分を高め孕みやすくすると書物には書いてありましたし……」

リーフィ 「何より、主様ともっと深くキスしたいんです……ダメ、ですか？」

リーフィ 「ふえ？ あ、主さ、んむう！？ んちゅ♪ じゅぷっ！ んぷっ！ じゆる♪ んちゅ♪ ちゅ…：じゆるる♪ んぷっ！ れゝゝ♪ んれゝゝろれろれる♪ んちゅ♪ ちゅ、じゅぷぷっ！ んちゅゝ♪ ちゅ♪」

リーフィ 「んああ♪ 主様あ♪ もっろお♪ ちゅ♪ ちゅぷっ！ んちゅ♪ れろれる♪ じゆるる♪ じゅぷっ！ んぷっ！ れゝゝろれろれる♪ れろお♪ ちゅ♪ じゆるる♪ じゆるるるゝゝ♪ ちゅばあ！ はあ、はあ♪」

リーフィ 「主様あ♪ 好きです♪ 大好きです♪ 愛してますう♪ はああ♪ ん、ちゅ♪ えへゝゝ♪ スキイ♪ すきすきゝゝ♪ 愛してますうゝゝ♪」

リーフィ 「もっとキス……主様のいろんな所にいっぱいキスして、マーキングしてあげます♪」

リーフィ 「ですのでゝ♪ 唇の次はゝ……こゝゝこ♪ 主様のお耳に、キス♪ してあげますね♪」

リーフィ 「主様あ……んんっ、んっ、ちゅっ、んぢゅ……ちゅうう、んぢゅるっ……ちゅぶ、れるれる……ちゅっ、ちゅぶ♪」

リーフィ 「んじゅっ、ちゅう、ちゅっ……じゆるるっ……ぷああっ、はああんっ……」

リーフィ

「んちゅ♪ ぷちゅ♪ じゅぷっ！ れるるれ
ろれろれろれろお♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅうう
るるる♪ ちゅ♪ んちゅ♪ じゅるる♪ れろれ
ろお♪ れろれろれろれろお♪ んちゅ♪
ちゅ、ちゅ♪」

リーフィ

「はうう♪ 耳舐めただけで、顔がとっても熱く
なつてえ♪ こんな、ますます興奮しちゃいま
すよお♪」

リーフィ

「もつとお♪ お耳に沢山ちゅううううってさせて
ください♪」

リーフィ

「はぷっ！ んちゅっ、ちゅっ、ちゅぷっ……ん
じゅるる……はあんむっ、ちゅう、んちゅうる
るっ……じゅっ、ちゅっ……！」

リーフィ

「んちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪ ちゅぷっ、ちゅ、
じゅるる♪ れるる♪ れろれろ♪ れろれろれ
ろれろる♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ じゅるる
る♪ んちゅ♪ れろれろ♪」

リーフィ

「もつろお♪ んちゅ♪ じゅるる♪ れるる♪
ちゅ♪ 私の唾液い♪ ちゅ♪ 流し込んであげ
ますね♪ んちゅ♪ ちゅぷっ！ ちゅ、じゅる
る♪ れるるる♪ れろれろれろれろるるる
る♪ ちゅ♪ れろれろお♪ じゅるるる♪」

リーフィ 「んゝ、れるっ……れろろ、じゅちゅ、ちゆるる…
…じゅっ、ちゅっ、ちゅううう……んあっ、
はっ、はああっ……！」

リーフィ 「ちゅっ……ちゅぶっ……はあむ、れろ……ちゅっ
……ちゅぶくちゅっ……ちゅっ、れろ……れろれ
ろ……ちゅっ、はむっ……ちゅっ、ちゅっ……は
ぶちゅっ……」

リーフィ 「んっ、くちゅっ……ちゅうっ、じゆるっ、ちゅっ
……んちゅっ♪ おいひい♪ 主様のお耳い♪
れろっ……れろれろっ……ちゅっ……ちゅぱっ…
…んっ……れろっ……くちゅ……」

リーフィ 「んちゅっ、ちゅっ……れちゅっ……ちゅぶっ…
れるっ、くちゅぴちゅっ……ちゅっ……ん
ちゅっ……れろっ……れろれろっ……んゝちゅっ
……ちゅぱっ……んっ……れるっ……れりゅれ
りゅ……ちゅ……じゅぶ♪」

リーフィ 「はぶっ！ んぴちゅ、くちゅ……！ んんっ！
しゅきい♪ らいしゅきれしゅう♪ んちゅ♪
んっ……れゝゝ♪ れろれろ、んっ、くちゅ…
…！ ぐちゅ、ぴちゅ……！ ふああ……ん
ちゅっ……れろれろ……！」

リーフィ

「んん……ちゅっ……ちゅぶっ、んんちゅっ♪ れろ、ちゅりゅ……れろれろ……れん、んちゅっ、ちゅぶっ……れろれろろ……ちゅううう……んちゅぶっ……ぶはあ♪ はあ、あうう♪」

リーフィ

「えへへ♪ 主様ったらあ♪ こんなにお耳を真っ赤にされて♪ 私のお耳ご奉仕、気に入っていただけたのですね？ 頑張ったかいがありました♪」

リーフィ

「では、今度は反対のお耳にも耳舐めして差し上げますので少し移動しますね？」

リーフィ

「それでは、こちらも……はむっ♪ ちゅっ、ちゅぶくちゅっ♪ ちゅっ、ちゅうう……れろろ……ちゅっ、れちゅっ……れろれろ……んちゅっ♪ ちゅっ、ちゅっ♪」

リーフィ

「くちゅっ……れるっ、くちゅぴちゅっ……ちゅっ……んちゅっ……れろっ……れろれろ……んんちゅっ……ちゅぱっ……んっ……れるっ……くちゅ……」

リーフィ

「んちゅ♪ れん♪ れろれろお♪ じゅる♪ じゅぶぶっ！ んちゅ♪ ちゅ、れん♪ ちゅ♪ じゅりゅ♪ じゅるるる♪ れろれろれろろ♪」

リーフィ

「ん、ちゅ♪ ん、ん♪ 私、エルフのお姫様なのにい♪ ちゅ、れろれろ……はしたなく唾液を垂らしながらあ♪ ん、ちゅ、ちゅ♪ れろれろしちやってえ♪ んん♪ 恥ずかしくて恥ずかしくておかしくなりそうですう」

リーフィ

「でも止められない……体が主様を求めて、ペロペロしたくて勝手に動いちゃうんです……♪」

リーフィ

「はぶ、ちゅっ……んちゅ、ちゅぶ、くちゅぴちゅ……れろれろ、んちゅ、ちゅぶっ、ぶちゅ、れるる……じゆるる、じゅぶぶぶっ！ れりゅれりゅ、んちゅ、ちゅ、ちゅ♪」

リーフィ

「ちゅっ……ちゅぶっ……はあむ、れろ……ちゅっ……ちゅぶくちゅっ……ちゅっ、れろ……れろれろ……ちゅっ、はむっ……ちゅっ、ちゅっ……はぶちゅっ……」

リーフィ

「んっ、しゅきい♪ くちゅっ……ちゅうっ、じゆるっ、ちゅっ……んちゅっ……れろっ……れろれろっ……ん、ちゅっ……好きですう♪ 主様あ♪ ちゅ♪ れろれろお♪ れりゅ♪ んちゅ♪ じゅ、じゅぶぶ！ ちゅぶっ！ ん、んん♪ ちゅっ……んっ……れろっ……くちゅ……」

リーフィ

「んっ……もっろ……んっ、ちゅっ……くちゅっ……じゆるっ……ちゅっ……ちゅぱっ……はあ……はあ……激しく……してあげまふね……」

リーフィ

「んぴちゅ、ちゅぷっ！ んんっ！ れろ、れろれ
ろ……んゝちゅ！ じゅりゅじゅりゅ……ちゅぷ
ぷっ、んじゅっ、れるれる……ぐちゅ、ぴちゅ…
…！ ふああ……んちゅっ……れるろ……！」

リーフィ

「じゅぷぷ！ ちゅぷっ！ ん、んん！ じゅるる
♪ じゅるるるるるる！ ちゅ、んちゅうう♪
ちゅ♪ れるるるるるるるるるるるるるるる♪ れろ
れろれろれろれろれろれろお♪」

リーフィ

「はぷっ！ んちゅっ……れるっ、ちゅう、ちゅっ
♪ じゅるっ、じゅりゅりゅ……ちゅうううう
……んちゅっ♪ れるっ、んちゅっ♪ ちゅぷく
ちゅっ♪」

リーフィ

「ん！ んんっ！ ぷはっ！ はあ、はあ……は
ふう……んゝちゅ♪ えへへ、ちよつと我を忘
れて夢中になってしまいました。申し訳ありませ
ん」

リーフィ

「って、きやん♪ やあ♪ 主様ったらあ♪ ダメ
ですよお♪ そんな、勃起おちんぽをおまんこに
擦りつけては……ん、あん♪ まだ、おまんこに
入れるのは、んん♪ 少し早いですがからあ……
♪」

リーフィ

「つて、はうう！ あ、主様？ そ、そんな、おまんこの入口でおちんぽ扱かれて……んやああ！ あ、ああん♪ 主様あ♪ こ、これえ♪ らめですよお♪ こんな、交尾みたいに、おちんぽ擦りつけちゃ……ん、はううう！？」

リーフィ

「ん、んん！ も、もう！ 主様ったら！ ん、あん♪ 私の発情おまんこ汁をローションにして素股だなんてえ……ん、やあ♪ エッチすぎますう♪ ん、あ、あ、ああ♪」

リーフィ

「むうう！ そんな意地悪な主様には、私も耳舐めでお返しして差し上げます！」

リーフィ

「はむうつ！ んちゅ♪ ちゅぷつ！ ん、んん！ れろれろれろれろお♪ れろろれろれろれろお♪ んじゅつ！ じゅぷぷつ！ じゆるるるる♪ じゅぷぷつ！ んぷつ！ ちゅ、ちゅ、ちゅうう♪」

リーフィ

「んぷうつ！ れろれろお♪ ん、んん♪ ンあっ！ あ、んあああ♪ あうん♪ あ、主さまあ♪ せめてえ♪ もう少し加減をお♪ んあ♪ あ、あ、あ、あああ♪ はひゆう♪ ん、んちゅ♪ ちゅぷつ！ れろろれろれろお♪ れろれろれろれろ♪」

リーフィ

「ちゅ♪ じゅぷっ！ ちゅぷっ！ れろれろ♪
ん、ちゅ♪ くちゅ♪ じゆるる♪ じゅりゅ
りゅりゅ♪ れゝゝゝゝろれろれろお♪ ん
ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

リーフィ

「あううう♪ おちんぽお♪ おちんぽ気持ちいで
すよお♪ 主様あ♪ んちゅ♪ ちゅ……れろれ
ろお♪ んん♪ ちゅ♪ んちゅ♪ れゝゝろれ
ろれろ♪ じゆるる♪ じゅぷぷっ！ れろれ
ろ♪ んん♪ んああん♪」

リーフィ

「おまんこにい♪ 主様のおちんぽお♪ 先っぽの
段差が擦れてえ♪ あうあううう♪ クリが引っ
かかって気持ちよすぎますよおお♪ ん、ひやう
ん♪ あ、あ、あ、あああ♪」

リーフィ

「ううう！ ん、んん♪ こんな暴れん坊なおちん
ぽはあ♪ 私のぷにぷに太ももで挟んでえ♪ ん
ゝゝえい！ ぷにぷにゝゝ♪ ん、あ、あん♪
やあ♪ おちんぽのビクビクが伝わってきて♪」

リーフィ

「感じてくれてるんですね？ ロリエルフの幼い太
ももで、おちんぽぴゅっぴゅしそうになってるん
ですね？」

リーフィ

「はああ♪ はいい♪ どうぞこのまま、私のおま
んこと太ももに挟まれて気持ちよくぴゅっぴゅし
てください♪」

リーフィ 「私も、んん♪ 一生懸命、主様がイけるようにサ
ポートいたしますので♪ ん、しょ、ん、しょ
♪」

リーフィ 「はあむ♪ ん、んゝちゅ♪ れゝゝ♪ れろれ
ろれろれろお♪ んちゅ♪ じゅぷっ！ じゆる
る♪ ちゅ、ちゅぷくちゅ♪ れゝゝ♪ れろれ
ろれろれろお♪ じゆるる♪ じゅぷぷぷっ！
んゝちゅ♪」

リーフィ 「あう、んああ！ あ、ああ♪ おまんこからあ♪
どんどんおまんこローション垂れ流れてえ♪
んああ♪ おまんこお♪ おまんこ気持ちいで
すう♪ 主様あ♪ おまんこもっとお♪ 気持ち
よくう♪ ん、んん♪」

リーフィ 「はぷっ、れるっ、じゆる、じゆるる……くす、く
すっ……じゆるる、じゅっ、ちゅっ……ちゅうう
うっ……」

リーフィ 「んん……しゅきい……しゅきしゅきい……ありゆ
じしやまあ♪ れゝゝ♪ ちゅっ……れろ……れ
ろれろっ……れろれろれろお、ちゅっ……ん
ちゅっ……じゆるっ……ちゅっ……ちゅぱっ……
はあ……はあ……」

リーフィ 「あむ、れるっ……くふうんっ……好きっ、好きで
すっ、主様っ……一目見た時からっ、大好きに
なってえ♪」

「ずっと前から、こうなる定めだったような気まで
して♪ んちゅ♪ れろれる♪ じゅぷっ！ ん
くちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ 愛しさが、んっ！
ああん♪ もう止まらなくてえ！」

「もっろお……ん、れるっ、くちゅぴちゅっ……
ちゅっ……んちゅっ……れろっ……れろれるっ……
……んくちゅっ……ちゅぱっ……んっ……れるっ……
……くちゅ……」

「んじゅっ、ちゅっ、ぢゅうううっ……れるるっ、
ちゆるっ、んじゅううくくっ、ちゅっ、ちゅ、
んく、好き、好きい……！」

「あむっ、くちゅっ……れるっ、くちゅぴちゅっ……
……ちゅっ……んちゅっ……れろっ……れろれ
ろっ……んくちゅっ……ちゅぱっ……んっ……れ
るっ……くちゅ……」

「はあ、ん、んああ♪ 耳舐めしてる間にい♪
お、おおおお♪ 主様の我慢汁とお♪ 私のト
ロトロおまんこ汁が混じってえ♪ ん、やあん♪
濃厚なえろえろジュースが出来ちゃってますう
♪」

「はあ、はあ♪ このおまんこジュースを、全部お
ちんぽにまぶしながらあ」

「もっと激しくおちんぽしごいてあげますね♪」

リーフィ

「んほおお！ おほっ、んっ、おっ！ くううう、
んひっ、ひいいんっ！ 腰っ、止まらなっ、
あっ、あっ、あっ！ んあああああっ！」

リーフィ

「イグううう！！ んあああ！！ あ、あ、あ、
あああ！ イグウ！！ イグイグイグイグイ
グイグイグ！！ イっぐううううううう
うううう！！！」

リーフィ

「んひゃああああああああっ！ はっ
ひいいいい！ お、お、お、お、お、お、！！
で、でてましゅうう！ せーえきっ、かかっ
てっ……びゅーって……ひっ、あひいいい
んっ！」

リーフィ

「お、お、お、っ、お、ーっ！ 精液浴びてイグうう
ッ！ こんな無理れすう！ つがいのせーえき
あびるのよしゆぎでしゅううっ、んくううっ！」

リーフィ

「んおおお♪ お、お、お、お、お、お♪ おまん
ごおお♪ おまんこも潮吹いてイってましゅうう
♪ 姫なのにい♪ エルフのお姫様なのにい♪
んほおお♪ 下品な声出してイってましゅうう
♪ ん、んん♪ お、お、お、♪ 気持ちいい
のおおお♪」

リーフィ

「んおっ、おっ、お、お、おお♪ うぐ、う、く
ううう……はううう……まだ、まだ出てるう……
身体に、かかって……あひっ、ひっ、ひぐうう、
んくっ……!」

リーフィ

「ふーっ……ふーっ……はあ、あっ……はあ……
ん、はあ、はあ……身体に、出してもらっただ
け、で……こんなに興奮してしまっなんて」

リーフィ

「この勃起おちんぽが私のキツキツおまんこに入れ
てしまったらと考えると、興奮しすぎてどうにか
なってしまいますう♪」

リーフィ

「主様もうすっかりお元気になられたみたいで
すし、このまま本番セックス、しましうね♪」

◆トラック3

リーフィ

「主様はそのまま寝てください。私を孕ませる為
にエッチをするんですから、私が上で動いて気持
ちよくしてあげる……それが当然の形だと思いま
すので」

リーフィ

「ん、しょ……はああ♪ 先ほどは太ももに挟んで
たので見えませんでしたけど、主様のおちんぽ、
こんなにおっきくて厭らしくて♪ それにエッチ
な匂いがプンプンして……♪」

リーフィ 「すん♪ すんすん♪ すううゝゝゝはああゝゝゝ
♪ あうあうあうう♪ おちんぽミルクの香りい
♪ んん♪ やあ♪ この匂いだけでおまんこが
発情して、おちんぽ欲しいよお♪ って、下品に
オネダリしちゃってます♪」

リーフィ 「ふえ？ すっごいいやらしい顔になってるって、
ううう……仕方ないじゃないですか」

リーフィ 「大好きな主様に孕ませてもらえるんですよ？ そ
んなの……発情して、いやらしくもなりますよお
♪」

リーフィ 「主様あ♪ どうか、このドスケベロリエルフの初
物おまんこに、主様の逞しいおちんぽを入れて、
つがいとしての証を刻んでください！」

リーフィ 「はい！ それでは、おちんぽ、おまんこに入れま
すね？ ……んっ！ くふっ、んくっ……
くうううっ、はひいんっ！」

リーフィ 「主様のおちんぽが、私のキツキツおまんこを広げ
ていっていますう……あっ、ああ！ 下品に愛液
を垂らしたオネダリオまんこにい♪ おちんぽ迎
え入れようとしていますう！ ひゃっ、あんっ！」

リーフィ 「んあ、あ、あ、あああ♪ 来ます♪ 入ります♪
おちんぽお♪ 私のおまんこにい♪ ついにい
♪ 主様あ♪ 私のお♪ リフィーの二度つきり
の初めて♪ 「堪能くださいい♪」

リーフィ

「んひやあああああああああつ！！？？」

リーフィ

「んひやつ！ はっ！ はひっ！ お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、ふっ♪ ふう、ふう、ふう……はふっ！ はあ、はあ、はあ、はっ……くふううう、んっ、んっ……お、お、ぢんぽお、入りましたあ♪ 私の一番奥まで……赤ちゃんのお部屋までえ♪ はあ、はあ……ん、あ、はあ、ふうう……」

リーフィ

「やつ、はっ……主様のおちんぽお♪ 大きすぎましゅうう……♪ お馬さんみたいな勃起おちんぽお♪ もう子宮まで届いてるのにい♪ おちんぽまだおまんこからはみ出してますう♪」

リーフィ

「んう、くう……も、申し訳ありません。私の小さすぎる雑魚雑魚まんこのせいで、主様のモノを全て受け入れることが出来ず……」

リーフィ

「つて、ふえ？ やっ！ あ、ん、やあ！ あ、主様あ♪ やあん♪ またお腹の中で大きくう♪ ちっちゃな口リまんこを串刺しにするのがそんなに興奮するんですか？」

リーフィ

「はうう♪ まったくう♪ 主様ったら、本当に変態さんなんですネ♪」

リーフィ

「主様は所謂ロリコン、という方なのでしょうか？ えへへ♪ もしそうであつたなら尚更嬉しくなっちゃいます♪」

リーフィ 「きっと私の体がいつまで経っても大きくならないのは、主様に気に入っていただく為だったので
しょうね♪」

リーフィ 「ん、では、主様の大好きなロリおまんこで、いっぱいぴよんぴよんしておちんぽ気持ちよくしてあげます♪ メスエルフのおまんこダンス♪ 楽しんでくださいね♪」

リーフィ 「あっ、んふっ………！ はっ、はっ………んあ♪
あ、や、お、おとおお♪ 動く度に、ん、ん！ 奥当たりますう♪ んいつ、あっ、あっ、ひゃっ、くうんっ！」

リーフィ 「んひゃっ！ んっ、んんっ！ あ、ああん♪
やっ！ ん！ ど、どうですか？ ロリエルフの、おちんぽ搾りっ！ ん、あ、あ、ああ♪
き、気持ちいい、ですか？」

リーフィ 「え、えへへ♪ はあ、ん、あ、あん♪ 言葉に
なくても、主様の顔を見れば分かっちゃいますね
♪ 嬉しいですよ♪」

リーフィ 「んっ、はあ、ああっ！ 私も気持ちいいです！
あ、あ、あ、ああん♪ やあ♪ 初めてだったの
に、んん♪ もうすっかり感じて、おちんぽ欲し
がってて♪」

リーフィ 「はあ、はあ……ん、仮にも姫なのにい……子種を授かるためにこうしてまぐわってるはずなのにつ……」

リーフィ 「おまんこ気持ちよくなって、主様の上で下品にぴよんぴよん跳ねてしまっておりすうっ！」

リーフィ 「んあ♪ あっ、あっ、あっ、ああっ！ はっ、はっ……くひっ、んっ……くううっ、はっ、あっ……これ、好きっ、奥に、ズンズンってえ！」

リーフィ 「主様のおちんぽでお腹の一番奥っ！ 子種を宿す大事な子宮を叩かれるの気持ちいい♪ これ癖になる！ 癖になっちゃいますう！」

リーフィ 「んあああ♪ やっ！ あ、あ、あ、あああ♪ おまんこお♪ んひい♪ お、お、お、お、お……！ おまんこ汁があ♪ 主様のオス汁欲しさにどんどん溢れてえ♪ やあん♪ あ、主様あ♪ 見えますか？ 私のおまんこお♪」

リーフィ 「主様のおちんぽがパンパンする度にい！ んあ、あ、あああ♪ プシュプシュ吹いちゃってえ♪ 体中が主様に犯される喜びを知っちゃってえ♪ ん、はひい♪ お、お、お、お、お、お、♪ おまんこがあ♪ ん、はひい♪ おまんこが媚びてるんですう♪ おちんぽ媚び媚びダンス踊っちゃってるんですう♪」

リーフィ 「んああ！ あっ、はああっ、ああっ……やあ♪
おちんぽ膨らんで、グツグツ精子どんどん昇って
来てるの分かりますっ！」

リーフィ 「先っぽから、ダラダラえっちなお汁を溢れさせな
がら、孕ませる気まんまんの精液昇ってきてる
の、分かっちゃいますうっ！」

リーフィ 「ん、んああ♪ あ、あ、あ、ああ♪ 主様あ♪
キツキツのロリまんこでおちんぽ気持ちよく
なってるんですね？」

リーフィ 「こんなあ♪ ちっちゃくてえ♪ 無理矢理広げら
れた、おまんこお♪ プニアナオナホまんこお♪
発情メスエルフおまんこお♪ お下品な姫様お
まんこお♪ 気に入ってくれてるんですね♪」

リーフィ 「んひゃあ♪ あ、あ、あ、ああ♪ 嬉しいい♪
嬉しいですう♪ 主様あ♪ 私のおまんこで気
持ちよくなってくれてえ♪ ん、んあああ♪ お
まんこ好きになってくれてえ♪ んあ♪ あ、
あああ♪ やああ♪ 喜びで吹いちゃう！ おま
んこ吹いちゃいますうう！」

リーフィ

「はあ、はあ……はひい♪ あ、あ、あ、ああ♪
ん、はふうう♪ す、すみません主様あ♪ ま
た勝手におまんこ潮吹きしちゃ……ってえ
!!!??」

リーフィ

「んひやああああ！ あ、あ、あ！ 主様あ！
あ、んひい！ お、お、お、お、お、お、お、お、
ほおおお！ お、お、お、お、お、お、お、お、
おまんこらめれしゅううう♪ おまんこお
♪ ごわれりゅうう♪ 初せつぐすでおまんこ壊
れひやいましゅううう♪」

リーフィ

「はひい♪ お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
れてましゅうう♪ おちんぽにいい♪ 主様のお
♪ 勃起おちんぽお、お、お、お、お、お、お、お、

リーフィ

「む、無理れしゅうう♪ 主様ああ♪ 腰い♪ 動
かないれしゅうう……って、はううう……
やつ！ お、お、お、お、お、お、お、お、
しゃまから腰い♪ パンパンん！ やあ♪
や、ら、らめ！ らめらめらめえええ……！」

リーフィ

「死ぬうう！ お、お、お、お、お、お、お、
死んじやいましゅううう！ ん、んほおお♪
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

リーフィ

「やああ♪ おまんご気持ちよすぎてバカになりゆう♪ はひいい♪ お、お、お、お、♪ やあ♪ 主様とお♪ おちんぽの事しか頭にないれしゆう♪ は、はひいい♪ おおおおお♪ お、お、お、お、お、お、お、お、♪」

リーフィ

「あ、主様ああ♪ ん、はひいい♪ きしゆう♪ どうかあ♪ きしゆしてくらひやいいい！！んああ♪ あ、ああ♪ おおおおお♪ おまんこオナホにしながらりやああ♪ 口でもお♪ 口でも主様とお♪ 一つになりたいれしゆう♪」

リーフィ

「んちゆうう！ じゆるる♪ じゅぷづっ！ んちゅ♪ れろれろれろ♪ ちゆうう！ じゆるる♪ じゅぷっ！ じゅりゅりゅりゅ♪ じゅぷづっ！ ん、んちゆうう！ ちゅ♪ れろれろれろれろれろお♪ お、おおお♪」

リーフィ

「もつろ激ひくう♪ んぷう！ じゆるるうう！ じゆるじゆるじゆるじゆる！ じゅりゅりゅりゅ！ じゅぷづ！ んぷう！！ ちゅぱあっ！ お、お、お、お、お、お、♪ ん、んぷう♪」

「おちんぽお♪ おちんぽイつれえ♪ キツキツおまんこれえ♪ プニアナオナホまんこでええ♪ 子宮う♪ 壊れりゆぐらいいい♪ ん、はひいい！ おまんこおお♪ 一杯にいい♪ あ、あああ♪ おちんぽミルクでいっぱいにしてくださいい♪」

「んぷう！　ちゅぶつ！　じゆるっ！　じゆるる
る！　じゅぶぶつ！　んちゅ♪　れゝゝ♪　れろ
れろれろれろれろお♪　おおおおお♪　き
しゅうう♪　んちゅ♪　れろれろれろれろお
♪　れろれろれろれろれろれろれろれろおお♪
お、お、お、お、お、お、お。」

「んひい♪ おっほおお♪ おまんこおお♪ お、
お、お、お、♪ んひい♪ ちゅ♪ れろれろれろ
れろお♪ んああああ♪ やああ♪ おちんぽ来
ますうう♪ おちんぽ大きくなつてええ♪ ん
あ、あ、あ、あ、あああ♪ やああ♪ おまんこ
に來ますうう♪」

「私もまたイキましゅう♪ んあああ♪ あ、
 あああ♪ 主様ああ♪ 主様主様主様主様あああ
 あああ!!」

「一緒にいい♪ ん、んあああ♪ おまんこもおちんぽもおお♪ 一緒にイキたいれしゅううう♪」

リーフィ 「んああ♪ あ、あ、ああ♪ イグう♪ イッひやいましゅうう！ んああああ！ イクう！いく イつくうううううううううう！！」

リーフィ 「はひやああああああああああ！！！」

リーフィ 「んぎいい！ いっ！ あ、あああ！！ お、お、お、お、お♪ おまんこお♪ お、お、お、お、お♪ んほおおおお♪ イグう！ イグイグイグううう！ おまんこお♪ おまんこイってましゅううう♪」

リーフィ 「は、はひい♪ あ、あうあうう……はうううう♪ お、おおお♪ んおおお♪ おちんぽミルクう♪ んあああ♪ 主様のおお♪ おちんぽミルク嬉しいい♪ 嬉しいですうう♪ んあああ♪ 主様ああ♪」

リーフィ 「はあ、はあ……あううう♪ ひやうっ♪ あ、あうう♪ はああん まだ出て……んん♪ ああ♪ ミルクう♪ んん♪ ひやつ、あっ……子宮、赤ちゃんの部屋にぴゅっぴゅ当たって……あああ♪ これダメれすう♪ 初めてのセックスなのにい♪ 絶対癖になっちゃいますう♪」

リーフィ 「はああ♪ 種付けセックスう♪ 幸せすぎてえ♪ おかしくなりまひゅうう♪」

リーフィ 「はーっ……はーっ……あえっ、んっ……うくう
う、んいつ、はあ、はあああ……主様あ♪ また
きしゅうう♪」

リーフィ 「んちゅっ……んっ、ちゅっ、ちゅぶぶっ、
ちゅっ、じゅうう……ちゅっ、ちゅっ……」

リーフィ 「ちゅっ、ちゅっ……んむ、好き、しゅきい、
ちゅっ、ぶあ、はあ……んんう……主様っ、主
様あ……」

リーフィ 「はあ、はあ……ん、ふうう……こんなに、私のお
まんこで射精していただき、ありがとうございました」

リーフィ 「さすがに主様のおちんぽも疲れて……って、えへ
へっ♪ おちんぽ……びくびくして、まだまだ元
氣みたいですな♪」

リーフィ 「このままでは消化不良でしょうし、私のこと、
もっと愛していただけますでしょうか？」

リーフィ 「はううう♪ 私、とっても嬉しいです♪」

リーフィ 「それではまた体勢を変えて……続きをいたしま
しょうね♪」

◆トラック 4

リーフィ 「次は、私が後ろを向きますね……っと……」

リーフィ 「あうあうう……すみません主様。今のセックス、
激しすぎて腰に力が入らないみたいです……」

リーフィ 「壁にもたれ掛かる格好になってしまいました、
これだと主様にお尻を向けて誘惑してしまってい
るみたいですね♪」

リーフィ 「んう、はあ……どうです？ よく見えますか？
さっきまで主様の勃起おちんぽが入ってた、私の
ロリまんこ♪」

リーフィ 「おまんこ激しく突かれたせいで、クリもビラビラ
も真っ赤にはれちゃって♪ ひくひく痙攣しなが
らおちんぽのおかわり欲しがってるんです♪」

リーフィ 「って、はうう！？ やあ……おまんこが震えて、
主様の精液垂れてますう……ううう、大事な孕
ませ汁なのにい……」

リーフィ 「んんっ、んっ……んうう……ダ、ダメですう……
おまんこに力を入れても、ポタポタおまんこから
垂れてえ……」

リーフィ 「このまま、おちんぽをおまんこに入れても、大切
な子種ミルクがかき出されてしまいますし……」

リーフィ 「あ！ そうです！ 主様♪ 私の方から次のエッ
チに関してご提案があるのですがよろしいです
か？」

リーフィ

「おまんこには射精したばかりですし、同じ穴を繰り返しては主様も飽きてしまわれると思いますので……あうう♪ とっても恥ずかしいんですが……私の……ロリエルフの……お尻まんこで……キツキツアナルでエッチ、してみませんか？」

リーフィ

「本来であれば、孕むことのできないお尻を犯してもらうなんて許される事ではないのですが、そのう……私が主様とつがいになる……全てを捧げる証として、私の全てを味わって欲しい……オマシコだけじゃなくて、お尻も主様の物にして欲しい……」

リーフィ

「私の身体の全ては、主様のものだと言明したいのです……」

リーフィ

「……あ、えっと……べ、別に私が、そちらの穴でのまぐわいに、興味がある訳ではありませんよ？
本当ですよ？」

リーフィ

「ただ、これから毎日子種を注いでもらうとしたら、おまんこだけでなくお尻の穴も使い込まれるとだろうと思って……」

リーフィ

「だ、だから！ 今のうちに、こちらの穴でも主様を受け入れられる身体になりたいんです。」

リーフィ 「もし主様も私のお尻でエッチしたいと思ってく
さるのでしたら、どうか、この逞しいおちんぽ
で、私の小ぶりで桃のようなお尻も味わってくだ
さいませ♪」

リーフィ 「さあ主様、よく見てください♪ こうやって……
おまんこから垂れる精液をお尻の穴に塗り込ん
で、……ん、あん♪ ぴっちり閉じたキツキツア
ナルう……くぱあって広げてえ……♪」

リーフィ 「ん、んああ♪ あ、あうう♪ お尻の穴に指入れ
るの、初めてなのにい♪ ひやううう！ ん、ん
ん♪ あうう♪ どんどんぬぷうって入っちゃい
ますう♪ ん、あ、あ、あん♪」

リーフィ 「あ、やあ……主様あ、聞かないでください……
お尻開いた空気の音お……お姫様のオナラあ……
聞かないでええ……恥ずかしいですう……あうあ
ううう♪」

リーフィ 「はあ、はあ……ん、んん♪ 主様にアナル見られ
て……オナラ聞かれてえ♪ 恥ずかしいのにい……
……でもどうしようもなく気持ちよくなつてえ♪
アナルキツキツに締め付けちゃうんですう♪」

リーフィ 「はあ、主様あ♪ アナルの皺がきゅっ、きゅっ、
てひくひくして、おちんぽ欲しがってるんですう
♪ 主様の精液塗れのおちんぽお♪ アナルで綺
麗にふき取りたいんですう♪」

「主様あ♪　どうかあ♪　どうかこの欲しがリアナルにちんぽ下さい♪　キツキツアナルにい♪　ちんぽ入れて気持ちよくなってくださいい♪」

「私の身体は、全部、ぜーんぶ！　主様の精液を搾り取るためのオナホなんですから♪」

「ほら、ほら♪　ちっちゃいおまんこより更にキツキツの、エルフのロリアナル……主様のおちんぽで広げてくださいますえ♪」

「あつ、はあつ♪ 来てただけるのですね♪ えへへ♪ お尻の入口に主様のおちんぽの熱、感じてしまいます♪」

「はっ、はっ……精液が残ったおちんぽでアナルほぐされてえ♪　メスのケツ穴広げられてえ♪　これ、すごい興奮しちゃいますよお♪」

「んひっ！　くう、うふうんっ……まだ先端しか入ってないのに、お尻が吸い付いて……んあああ♪　か、感じちゃいますう！」

「あつ、あああ♪ はっ……来て、来てます！ お尻の穴あ♪ 奥までえ♪ おちんぽ来ます！ 全部入りますうう♪」

「んあああ♪ お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お」

リーフィ

「はひいい♪ お、お、お、お♪ 主様の、ふっとい、おちんぽきてえ……♪ あう、ひ、ぐ……くふううんっ！」

リーフィ

「お、お、お、お♪ んああ♪ や、やああ……♪ 私、ケダモノみたいな声が、止まりませんっ……！」

リーフィ

「お尻っ、メリメリって広げられながらあ……下品な声、出ちゃうんですう……おほっ、おっ、おとおおっ……！」

リーフィ

「んぎっ、あっ、あっ……やあ♪ 主様のおちんぽ、カリ首でゾリゾリしてるの感じますう♪ 感じちゃいますう♪」

リーフィ

「はあ、はあ♪ 主様あ♪ どうか思うがままに腰を振ってください♪ 私のアナルが開きっぱなしになってしまいうくらい、主様のおちんぽの形を教え込んでくださいい♪」

リーフィ

「んおお！ お、お、んお、お、お、っ！？ ひ、開くっ、お尻開いちゃいますっ、これっ、しゅごっ、お、んほおおっ！」

リーフィ

「子作りでもなんでもないっ、気持ちよくなるためだけのセックス！ 私っ、これ好きっ、好きですう！」

リーフィ 「あああつ、主様、主様あ！ アナルでこんなに声を上げる下品なエルフで申し訳ありませんっ！ ん、んあつ！ あ、あ、あああ♪ やああ♪」

リーフィ 「で、でも……感じちゃうっ♪ お尻ほじくられて感じるう！ んああ♪ あ、ああああつ、すごい！ しゅごいれすうっ！」

リーフィ 「もつと強くっ、強くして大丈夫ですからあつ！ 私が壊れちゃうまでっ、ケツ穴閉じなくなるくらいいい！ もつともつとおちんぽくださいっ！」

リーフィ 「ひうっ、あつ、あああつ！ おっ、おっ、おっ、おっ、おおお！ んっ、やあ！ あつ、あああ！ おっ、んほおおっ！」

リーフィ 「おちんぽいい♪ おちんぽお♪ 主様のおちんぽおお♪ はあ、ん、お、♪ お、お、お、お、お、お、お、お、♪ お、ぢんぽおおお♪」

リーフィ 「んああ♪ しゅきい♪ おちんぽせつくしゅうう♪ アナルせつくしゅうう♪ おちんぽおお♪ おちんぽおちんぽおちんぽおちんぽおおお♪ んあ♪ あ、あ、あ、あああ♪」

リーフィ 「主様あ♪ おちんぽもつとおお♪ もつとくさいい♪ メスエルフのキツキツアナルにい♪ 主様のお♪ おちんぽお♪ もつとお♪ もつと欲しいんですうう♪ ん、あ、ああ♪ あ、あ、あ、あああん♪」

リーフィ 「ん、は、はひっ!？ んはっ! はあ、はあ……
あ、主様? ど、どうしておやめになられるので
すか? はああ……ん、やです……今、止めたら
切ないですう」

リーフィ 「ふえ? わ、私の淫らな……もっくと淫らなおね
だりが聞きたいのですか?」

リーフィ 「はふうう……主様ったらあ、これ以上下品なおね
だりだなんて……本当にイジワルで、とっても素
敵ですう♪ アナルで感じているだけでもはし
たないのに、もっと私を辱めようとするだなん
てえ♪」

リーフィ 「ん、わ、分かりました。もっとえっちにおねだり
しますから……そうしたら、本当にお尻が壊れて
しまいうくらい……もっともっと強く私の事、虐め
てくださいね♪」

リーフィ 「では、主様。もっとお顔を寄せてくださいませ
♪」

リーフィ 「はあ……はあ……ん、ぐくっ……ん、はううう……
…」

リーフィ 「わ、私は、エルフの姫という高貴な身でありなが
ら……」

リーフィ 「世継ぎを得るためと言い訳しながら、下品におまんこ汁を垂らして主様のおちんぽを誘惑し、おちんぽぴゅっぴゅしてもらいました」

リーフィ 「それなのに、また自らのスケベな欲望を満たすため、主様にこんな汚いアナルまで犯してケツマンコにしていただこうとしてしまってますぅ……」

リーフィ 「主様の望むがままに、何度も何度も孕ませてくださって構いませんからぁ……♪ お口も太もも、おまんこもアナルもどこでも好きなときに好きな様に使っていいですからぁ……♪」

リーフィ 「だから、こんな卑しくて淫らな変態ロリエルフを、主様の立派なおちんぽで躰けてくださいい♪ 主様のおちんぽでしか一生イケないように、私の全てに主様の証を刻み付けてくださいい
いっ……！」

リーフィ 「んひいっ！？ お、お、お、お、お、お、んっ！
お、お、っ、お、っ、お、お、お、おっ！ おほっ、ひぐううううっ！」

リーフィ 「おちんぽおっ！ おちんぽお！ ちんぽおお♪
入ってきてますっ！ お尻の奥にガンガン当たってますうっ！ あああああっ！」

リーフィ 「そこっ、す、すごいっ！ お尻パンパンされてえっ！ おまんこにも響いてえ！ アナルなの
に、おまんこ感じますうっ！」

リーフィ

「んああああ♪ あ、ああああ♪ お、お、お、お、お、お、お、お、お、お……くひっ、あっ、ひいひい
いんっ！ おっ、くおおおっ、んいっ、あぐっ、
ひぎいっ、ああああっ、ひやううっ！」

リーフィ

「あああ♪ 主様ああ♪ 私のおお♪ お、お、お、
お、♪ ケツまん」おお♪ 広げてくだひや
いいい♪ 一生開きっぱなしになるくらいいい♪
ん、んん♪ あああああ♪ ケツ穴閉じなくな
るくらいいい♪ ほじほじしてくだひやいいい♪
主様専用のおお♪ ケツマンコにいい♪ 気持ち
よくなる為だけの専用まんこにしてくだひや
いいいいいいい♪」

リーフィ

「んほおおおおおお♪ お、お、お、お、♪ お、
お、お、お、お、お、お、お、♪ また大きくう♪
ん、んひいひい♪ 主様のちんぽおおお♪
また大きくなってえええ♪ あ、あ、あ、
ああああ♪」

リーフィ

「は、は、はひいひい♪ んあああ♪ 主様ああ♪
もうイキそうなんれしゆかあ？ もう、ん、
あああ♪ おちんぽケツ穴でイっちゃいそうなん
ですかああ？」

リーフィ

「ん、あ、あ、あ、やん♪ ふう、ふうううう♪
え、えへへうう♪ イイレしゅよお♪ このま
まあ♪ 主様のおちんぽみりゆくう♪ いっぱい
出ひてええ♪ リフィーのケツに主様の証を刻ん
でくだしいい♪」

リーフィ

「んほおおおお♪ お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、♪ このままあ♪ 孕ませ
てええ♪ ケツ穴ああ♪ ロリのくっさい新品ケ
ツまんこおお♪ 清楚なケツにいい♪ ピン
クのケツにいい♪ 真っ白なミルクううう♪ ち
んぽミルクううう♪ らしてくだひゃいい♪」

リーフィ

「お、お、お、お、お、♪ んほおおおお♪ パンパ
ンってええ♪ きてええ♪ お、お、お、お、♪ ち
んぽおお♪ ちんぽちんぽちんぽちんぽちんぽち
んぽちんぽちんぽおおおお♪ おちんぽ
様あああああ♪」

リーフィ

「イグウ♪ イギましゅううう♪ アナルでええ♪
ケツ穴でえええ♪ ケツまんこでえええ♪ ん
ほおおおお♪ 下品にイキましゅうううう♪ お
ちんぽぴゅっぴゅでイっひゃいましゅうううう
うう!!」

リーフィ

「んああ♪ んん！ お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、♪」

リーフィ 「んにゃあああああっ……！ 絶頂してるケツ穴
につ、追い打ち射精っ、されちれてましゅう……
くううっ、んおっ、おおおっ……！」

リーフィ 「ひにやつ……はっ、あああっ……限界までイッて
るのにつ……主様、まだ出してるう……気持ちよ
く、んほ♪ お、お、お、お、♪ 射精い♪
してくれてましゅう♪ んほ♪ んん♪
ぴゅっぴゅゝってえ……♪ んあああ♪ 嬉し
いい♪ んほおお……♪」

リーフィ 「は、はひい♪ そんなにつ、そんなに私のケツま
んこお、よいのですかっ……はいっ、はいっ……
大丈夫ですから、お好きなだけ出してくださいま
せえ……♪」

リーフィ 「ほひゅっ、あっ、はっ……へあああっ……ん
ひっ、んっ、んっ……出りゅう……ちんぽみりゅ
くう♪ 出てましゅう……くひいい……」

リーフィ 「はーっ……はーっ……はああ……へう、ひううう
……んふあ……はっ、はっ……はああ……へっ、
へっ……んふうう……」

リーフィ 「あ、主様あ……しゅゝすぎ、ですよお……♪」

リーフィ 「なんだか、おまんこに出してもらった時より、興
奮していらっしゃるように見えますう♪」

リーフィ 「あう、あううう……主様との子を孕む為にエッチを始めたはずなのに、これだと私もケツ穴セツクスの虜になってしまいそうです……はううう……」

リーフィ 「つて、ふえ？ あ、主様？ もうおまんことナルで2回も射精されたのにまたこんなにおちんぽ勃起させて……ま、まだ満足されていらっしやらないのですか？」

リーフィ 「はううう♪ 流石主様です♪ 確実に孕ませる為にまだまだ子種を注ぎ込もうとしてくれるなんて♪ ううう♪ とっても嬉しいですよ♪」

リーフィ 「はい、私は大丈夫ですから♪ 本日は私が壊れちゃうくらい、いっぱいいっぱいぴゅっぴゅっしてくださいね♪ 主様♪」

◆トラック5

リーフィ 「お、お、お、お……♪ お、お、お、お、お……♪ おっふう……んお、お、お、♪ あ、主しゃまあ……お、お、お、♪ おまんこお♪ も、もう入りません……は、はあ、はあ……♪」

リーフィ 「こんなに沢山……おまんこからトプトプ溢れて……ベッドに零れて……♪ あん♪ やあ♪ 私のちっちゃなお腹がおちんぽミルクでぽっこり膨らんじゃってますよお♪」

リーフィ 「ん、あ、あううう♪ え、えへへ♪ 初日から
こんなにあいして頂けるなんてえ♪ ん、んん♪
う、嬉しいですよ♪♪ 大好きですよ♪♪
♪」

リーフィ 「主様あ〜♪ んん♪ 今日は本当にありがとう
ございましたあ♪」

リーフィ 「でも、それと同時に……申し訳ございませんでし
た……」

リーフィ 「なんだか、主様の好意を利用して、子種をいただ
くどころか、私ばかり気持ちよくなってしまっ
たみたいで……」

リーフィ 「ひやうっ!?! あ、主様、そんな急に抱きしめた
りして……ふえええ〜……主様あ……そんなに
強くされると、そのお、嬉しすぎて嬉しすぎて……
…おまんこがつかいを求めてまた発情しちゃいま
すう……♪」

リーフィ 「ふえ!?! わ、私とつかいになるのも、望むとこ
ろだと……はうっ、はうっ! はうううっ!」

リーフィ 「あの、その! そう言っていただけのは、と、
とっても嬉しいのですが! 同じくらい、恥ずか
しくなっちゃいますう……あのような醜態ばかり
見せてしまっておりましてから……」

リーフィ 「それが可愛かったって……ううう、もう！ んもう！ 主様ったらあ♪ 羞恥心で私を殺すおつもりですか♪ ほんとにもう……♪」

リーフィ 「あの、えっと……それで、つがいになっていただけるということは、ですね？」

リーフィ 「ええと、これからもエルフの国のために、私といっぱいエッチしておまんこ犯して膣中出しして……い、いっぱい孕ませてくださる、ということですよ……？」

リーフィ 「ふあああ♪ 主様、嬉しいです♪」

リーフィ 「こんなに激しくてエッチで、とっても気持ちいいセックスがこれから毎日出来るなんて、ああんもう！ 今から考えるだけでまた興奮してきちゃいますう♪」

リーフィ 「主様、好きです、大好きです♪ これから先何があっても主様と離れませんから♪」

リーフィ 「そしてエルフ族の存続の為にも、いっぱい孕ませエッチして、私たちの可愛い赤ちゃんを作るんです♪」

リーフィ 「ですから、どうか今後も、エルフの姫である私、リーフィと、未来の赤ちゃん共々よろしくお願いいたしますね、主様♪」

-
-
- ◆トラック7…おまけ 左耳舐めループ
 - ◆トラック8…おまけ 右耳舐めループ
 - ◆トラック9…おまけ 両耳舐めループ
 - ◆トラック10…おまけ おちんぼ淫語塗れの右耳舐めループ
 - ◆トラック11…おまけ おまんこ淫語塗れの左耳舐めループ
 - ◆トラック12…おまけ おちんぼおまんこ淫語塗れの両耳舐めループ
 - ◆トラック13…おまけ 主様しゅきしゅき両耳舐め3WAYループ
 - ◆トラック14…おまけ 主様しゅきしゅき淫語両耳舐め3WAYループ
-